

中村元記念館の行う事業

NPO法人中村元記念館東洋思想文化研究所は、公益財団法人中村元東方研究所と連携し、記念館の管理運営のほか、以下のようなさまざまな事業を実施してまいります。

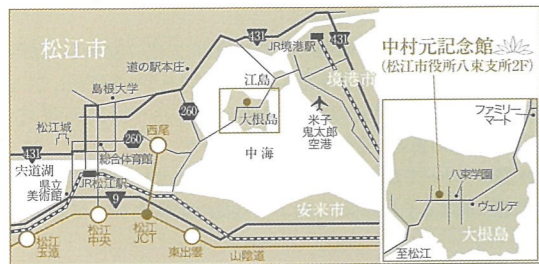
1. 東方学院松江校の講座開設
2. 講演会・学会の誘致
3. 協力大学のサテライトキャンパス
4. 研究員の募集および独自刊行物の出版
5. 図書およびアジア関連商品の販売
6. 企画展の開催
7. 海外研究旅行の企画、アレンジ
8. アジア音楽、舞踏コンサートの開催
9. インドと山陰との経済文化交流の推進
10. その他上記に付帯する必要な事業



中村元記念館

開館時間 10:00~18:00 | 休館日 月曜日 | 入場無料
(最終入場17:30)

お問合せ 特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所
〒690-1404 島根県松江市八束町波入2060 松江市役所八束支所2階
TEL.0852-76-9593 FAX.0852-76-9693
メール info@nakamura-hajime-memorialhall.or.jp
http://www.nakamura-hajime-memorialhall.or.jp/



- お車で: JR松江駅から約25分 米子空港から約15分
- バスで: JR松江駅から「八束町」行き、「八束支所前」下車
JR境港駅から八束コミュニティバス「八束中央」下車徒歩約3分

中村元の業績

中村元の業績は、余りにも膨大で、ここに一つ一つ取り上げることなど到底不可能です。今その本質的な部分だけを紹介すると、およそ次のように言えるでしょう。

歴史的視野からインド思想を解明

まず中村は、非凡な語学力と綿密にして厳格な文献学的手法を駆使し、収集した膨大な資料の的確な整理と分析を基礎に、インドの文化を、歴史的・思想的に解明しました。その際、単に思想そのものを解明するだけでなく、インドの歴史を明らかにすることによって、インドの思想文献をインド人の生活や社会的現実と関連させてとらえ、その上でインド思想の意義を理解しようと努めました。こうした中村の先駆的思考が、インド思想研究を大きく深化、進展させることとなります。中村が哲学者でありながらも、歴史学者ならばそれだけで一生の仕事となるような業績『インド史』2巻がある所以です。

仏典の平易な邦訳

仏教研究の分野においては、従来は宗派の教義研究が主であった仏教研究に対し、初期仏教聖典にもとづき、「ゴータマ・ブッダが何を教えたか」を究明したことがまず挙げられます。恣意的な研究を避け、言語学的、文献学的、考古学的根拠によって客観的に考察し、歴史的人物としてのゴータマ・ブッダの姿を浮かび上がらせました。

また中村は、仏典の言葉を、現代の日本人に共通な言葉で理解することを可能にしました。すなわち、難解な仏典を、原典からの平易でしかも正確な邦訳として、多くの一般読者のみならず専門家にも提供したのです。さらにそれは、仏教語を平易な日本語で解説した不朽の辞典『広説佛教語大辞典』全4巻の刊行という形で具現化されます。これは、従来の仏教辞典の概念を変え、仏教研究史上一時期を画したと言えます。中村のこのような努力は、仏教やインドの哲学的思想を専門分野以外の研究者にも開放することになり、諸学におけるこの分野の研究をして高からしめました。

比較思想研究の分野を開拓

中村はまた、日本における比較思想研究の分野を開拓しました。インド学・仏教学という特殊な文化圏に関わる研究を踏まえ、解明がきわめて困難な「東洋人の思惟方法」を、独特な方法論をもって東洋の主な国々についてえぐりだしたことは、この方面の最初の優れた研究です。それをきっかけに中村は、インドの

思想を、他の文化圏との比較においてとらえなおす比較思想研究への道に先鞭をつけました。インドから始まった研究は、東洋に広がり、やがて「世界の諸文化圏における諸文化的伝統において平行的な発展段階を通じて見られる共通の問題」を纏め上げるに至り、人類に普遍的な思想の解明にまで及ぶことになりました。

論理と倫理の究明

以上のいわゆる「哲学」に属する思想研究の分野に加えて、中村は、元来普遍的であるべき論理学体系が文化圏により異なっていることを指摘し、東西の論理的思考の構造を究明、人類共通の思考の枠組みである判断と推理を検証し、否応なくグローバル化する世界に必須な普遍的論理の構築を目指しました。また「論理とそれを成り立たせている倫理の解明」の必要性を考えていた中村は、さらに倫理へとその研究を掘り下げました。『論理の構造』と『構造倫理講座』3巻はその代表的な成果です。

世界思想史の構築

通常、学問研究は、その対象が、空間的ひろがりや時間的ひろがりにおいて、非常に限定されているものです。ところが、中村は、その視野を、インドから東洋諸国のみならずユーラシア大陸全体に、また時代的にも古代から現代にまで広げ、比較思想の手法を駆使して、まれに見る世界思想史の構築に成功したのです。

略 歴

- 1912 11月28日 島根県松江市殿町に生まれる
- 1925 東京高等師範学校付属中学校入学。しかし腎臓の病気を患い一年間の休学、宗教・哲学関係の書物を耽読
- 1930 第一高等学校文科乙類入学。この時代の恩師との出会いは後の学問の支えとなり、友人との堅い絆は後の東方研究会・東方学院設立の礎となった
- 1933 東京帝国大学文学部印度哲学梵文学科入学
- 1943 『初期ヴェーダ哲学史』にて文学博士
- 1951 『東洋人の思惟方法』が評価され、米国スタンフォード大学より客員教授として招聘、以後外国から受けた招聘は50回を超える
- 1954 東京大学教授に就任
- 1957 日本学士院賞恩賜賞受賞(『初期ヴェーダ哲学史』)
- 1966 近代インドの思想家にしてインド第二代大統領ラーダークリシュナンより「知識の博士(Vidyāvācaspati)」の学位
- 1967 オーストラリア学士院遠隔地会員。『佛教語大辞典』の原稿紛失、一ヶ月後再執筆開始
- 1970 財団法人東方研究会創立、理事長就任。学生時代の貧しい生活の経験から、無職の若手研究者の研究継続のための道を開く
- 1973 東京大学定年退官、同大学名誉教授。学園紛争の経験から東方学院設立、学院長就任、テリール大学名誉文学博士、ベトナム・バンハン大学名誉文学博士
- 1974 比較思想学会初代会長就任、紫綬褒章受章
- 1975 『佛教語大辞典』刊行(毎日出版文化賞、仏教伝道文化賞受賞)
- 1977 文化勲章受章
- 1978 イギリス王立アジア協会名誉会員、ネパール国王より勲章
- 1982 ドイツ学士院客員会員
- 1984 勲一等瑞宝章受賞、日本学士院会員就任
- 1989 松江市名誉市民
- 1994 第24代史跡足利学校庫主就任
- 1999 『中村元選集』[決定版]全40巻刊行完了。
10月10日逝去、享年86歳

表紙写真:再現された書斎



東洋思想の巨星

中村元記念館

Nakamura Hajime
Memorial Hall

नाकामुरा हाजिमे स्मारक सभागृह



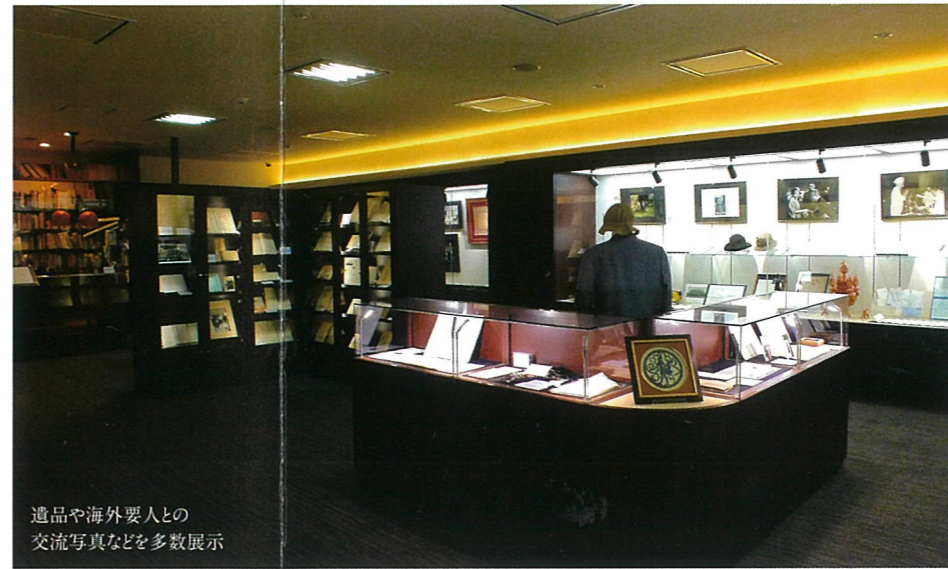
3万4千冊の蔵書の一部を壁面に展示する図書閲覧室



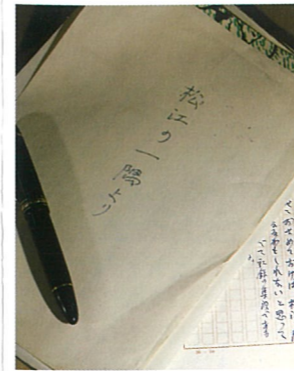
「佛敎語大辞典」のもとになった
ガリ版刷りの「仏敎語邦譯辞典」



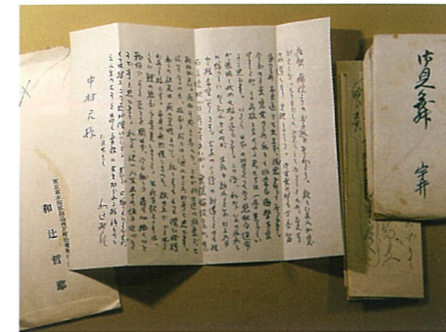
エントランス



遺品や海外要人との
交流写真などを多数展示



故郷松江への
思いを記した自伝草稿
「松江の一隅より」の原稿



姫路陸軍病院入院時の見舞い状
(和辻哲郎・宇井伯寿両博士から)



中村元

主な展示品リスト

書齋:

愛用の机／辞典類を置いた回転式書架／デスク用照明器具／
研究情報を整理したカード類／恩師・宇井伯寿博士の著書／宇井
博士より贈られた「一輪月照西湖水」の書／宇井博士より譲られた
抽斗／常用していたはたき 他

中央複式書架:

小学校時代に親戚、友人と交わした書簡類／旧制中学時代の作文
／旧制中学時代の絵画／第一高等学校卒業証書、卒業生名簿
／東大時代の講義録／卒業論文／比較思想研究の原点「東洋
人の思惟方法」／「初期ヴェーダーンタ哲学史」4部作／集大成
「世界思想史」／原稿紛失事件を乗り越えた『佛敎語大辞典』/
絶筆のメモ 他

壁面展示コーナー:

文化勲章賞状／デリー大学学位記とガウン、帽子／アジア、欧州各
国研究機関より授与された学位記／足利学校学主委嘱状／スタン
フォード大学招聘の際の寄せ書き／皇室、海外要人との交流を語る
写真パネル／愛用品／夫人のコレクションの帽子 他

その他:

姫路陸軍病院入院時の見舞い状／故郷松江への思いを記した
エッセイ／東方研究会設立の経緯を示す品々 他

展示室には上記以外に、映像と音声で東洋文化に触れることができる
iPad視聴コーナー、生前の姿を偲ぶアーカイブコーナーを併設しています。
図書閲覧室では、中村元の3万4千冊の蔵書の一部を展示しており、
東洋思想関係の書籍を閲覧することができます。
また、休憩コーナーでは夫人の遺品であるサルスベリの木を展示しており、
東洋思想に関する子ども向けの絵本や漫画を閲覧することができます。

中村元記念館

創立：平成24年10月10日

館長：前田専學(公益財団法人中村元東方研究所理事長)